国や言語を越えてスポーツでつながる
台湾宝山郷の子どもたちとバスケットボールで交流

問 学務課 学校教育係 ☎(232)4918

1 クラブきくよう所属の児童が果敢に攻める　2 シュートを決める武蔵ケ丘中学校の生徒　3 ボールに手を伸ばす菊陽中学校の生徒と宝山郷の生徒　4 互いに記念品を贈り合った　5 宝山郷の児童も負けじとディフェンスをかためる　6 熊本ヴォルターズから各チームにサイン入りユニフォームなどが贈られた

8月2日、総合体育館で、友好交流協定を結んでいる台湾宝山郷と町内の小・中学生が、バスケットボールで交流しました。宝山郷からは、邱郷長をはじめ、児童・生徒28人を含めた総勢73人が来町。試合に先立ち、宝山郷から記念品としてバスケットボールが贈られました。小・中学生がそれぞれ2試合の熱いゲームを行い交流を深めました。参加したクラブきくようの石原優冴さんは「たくさんの経験が積めた。これからもいっぱい練習したい」と感想を述べました。

また、宝山郷の学生は2泊3日で町内のホストファミリー宅にホームステイをしました。熊本城や阿蘇への観光の他、菊陽町夏祭りにも法被を着て参加し、日本の夏祭りを体験しました。最終日はホストファミリーと泣いて別れを惜しむ学生もおり、短い期間で子どもたちの絆を深める機会となりました。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

INTERVIEW

ホストファミリー
吉田 佳さん
(青葉台)

ホームステイの受け入れは初めてで緊張していましたが、3日間はあっという間で楽しかったです。これからも両町の交流が続いていくことを願っています。

菊陽中学校2年
山室 遼真さん

初めての国際交流試合で緊張していたけど、プレーの中でコミュニケーションが取れたのを感じ、最後には相手選手が握手をしてくれてうれしかったです。

武蔵ケ丘中学校2年
橋本 裕誠さん

台湾の友達とは言葉は通じないけど、バスケットボールのおかげでみんなとつながれたと感じました。一緒に試合ができて、とても楽しかったです。

TSMCチャリティー基金と熊本大学が主導

菊陽町民を対象とした「健康長寿プロジェクト」を発足

問 都市計画課 まちづくり推進室 ☎(232)4927

TSMCチャリティー基金が、熊本大学などと共同で、菊陽町民を対象とした「健康長寿プロジェクト」に取り組みます。

7月17日に行われた発足式では、台湾からTSMCチャリティー基金の張淑芬(ソフィーチャン)会長とブラッド・ペンCEO、国立陽明交通大学の林奇宏(リンチーホン)学長、台北市立関渡病院の陳亮恭(チェンリィアンゴン)院長が参加。熊本大学の小川久雄(おがわひさお)学長をはじめ、国立長寿医療研究センターの荒井秀典(あらいひでのり)理事長など、日本側の大学関係者および菊陽町と意見交換を行いました。

また、TSMCと大学および病院との協力方法や、熊本県における高齢者のニーズなど、関係者の取り組みを紹介した他、健康長寿プロジェクトに関するディスカッションも行われました。

今回のプロジェクトは、健康福祉分野など、経済分野の域を超えた取り組みに発展するもので、TSMC(JASM)進出のプラスの効果を町内に波及できるよう、関係者と連携しながら、取り組みを進めていきます。

発足式当日の参加者
(前列右から3人目がTSMCチャリティー基金張会長)

ディスカッションにおいて町の現状を説明する吉本町長

7/18

TSMCチャリティー基金が町を視察

「健康長寿プロジェクト」が発足したことに伴い、7月18日にTSMCチャリティー基金の張会長をはじめ、関係者が町へ視察に訪れました。

防災センターで、小牧副町長が今後のまちづくりについて説明をした後、総合体育館で杉並台ふれあいサロンと元気クラブの活動を見学しました。

視察に訪れた関係者と杉並台ふれあいサロン・元気クラブの参加者(TSMCチャリティー基金張会長は前列左から5人目)

体操や季節の作り物などの創作活動、レクリエーションなどの普段の活動、参加者の孤立感解消を目的とした昼食会、サロン欠席者への自宅訪問による声かけ活動について説明をした他、実際にストレッチやベンチサッカーなどを行いました。

張会長と交流する杉並台ふれあいサロン・元気クラブの参加者

地域住民が主体となった介護予防活動を視察することで、町の現状や今後のプロジェクトに求められることなどを確認してもらう機会となりました。